



「チャリーとチョココレクト工場」の映画の登場人物にキャラクターの違う5人の子どもたちが登場します。

家族思いのチャリー、知的レベルが大人以上でゲームおたくのマイク、欲しい物は何でも手に入れてきたペルーカ、これまで手に入れたトロフィー236個の賞獲り少女のバイオレット、チョコを食べることが趣味で食いしんぼうのオーガスタス。

ゴールデンチケット(招待状)を手に入れた5人の子どもたちがチョココレクト工場に招待されました。その中の一人にチョココレクト工場オーナーのウォンカから特別賞が渡されます。

この映画では、オーナーから渡される特別賞獲得に向けて5人の子どもたちの性格が面白いほどよく出ています。例えば、ペルーカは、父の工場の従業員を使って、ゴールデンチケットが出てくるまで、何百のチョココレクトの包み紙を開かせました。ペルーカの父は、娘に甘く、何でも言うことを聞いてしまう親です。

映画ですので、性格を誇張している

所がありますが、これに似た状況は身近にもあります。お風呂から出てきて何もしないで立っている子がいます。いつも母親が体を拭いているので、やっもらうことが当たり前と思っっているのです。

「鬼ごっこ」をすれば逃げないで無理と捕まる子どもがいます。なぜか聞くくと、鬼になりたいと言うのです。どうしてと聞くと鬼の方が目立つし注目されるから、楽しいそうです。このように自分中心でわがままな子どもは一緒に遊んでも鬼ごっこにならないので仲間はずれにされてしまいます。

最近、このような自立していない子どもが増えているように思います。子どもが自立できるかどうかは、幼児期のしつけによります。



子どもが自立できるための大人の関わり方を、元小中学校校長の萩本悦久先生が月刊誌のなかで次のように述べていますので引用します。

上手なしつけの基本は「いっしょにす

る」ことです。大人の姿を見て幼児は学んでいきますので、一緒に行動しながら見本を見せてあげることが大事です。おもちゃで遊んだ後は、一緒に片づけてください。部屋の掃除をするとき、手で拾えるゴミがあつたら、拾ってゴミ箱に入れてください。靴下やハンカチが汚れたら、一緒に洗濯かごに入れてください。こうして、大人と一緒に行動しているうちに習慣となり、自分でもできるようになります。

次に身につけさせたい大切な言葉は、「ありがとう」、「おはよう」、「いただきます」などです。一日に何回も繰り返すことによってどういうときに言う言葉か覚えていきます。

三つ目は、幼児は、自分でできるよになるかと大人がしている仕事を一人でやれたがります。やらせてあげてください。失敗してもしからず「ありがとう」と言うのがこつです。

四つ目は、「しなさい」、「いけません」は禁句です。大人に言われなければやらない子になりますし、言われ続ければ、自分では動けなくなりま

このようにして、自立できるようになった子どもは、大人に勉強しなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強するようになるそうです。

最後に「いってらっしゃい」、「お帰りなさい」というお母さんやお父さんの元気な声や言葉かけは、子どもを元気にさせます。今からでもやってみてください。

裁判員制度が

平成21年5月までに
スタートします！

裁判員制度は、国民から無作為に選ばれた裁判員が、殺人、傷害致死などの重大事件の刑事裁判で裁判官と一緒に裁判をするという制度です。

裁判員制度の導入により、皆さんの感覚が裁判の内容に反映されることになり、皆さんの司法への参加が大きく進むこととなります。

裁判員は

こつして選ばれます

裁判員候補者名簿を作ります



事件ごとにくじで、
裁判員候補者が選ばれます



裁判所で、候補者から裁判員を選ぶための手続きが行われます



裁判員が選ばれます

私の視点、私の感覚、
私の言葉で参加します。